

プレスリリース

近藤高弘 個展『結露』

2022年10月8日（土） - 11月12日（土）

東京画廊+BTAP | 東京

〒104-0061 東京都中央区銀座 8-10-5 第四秀和ビル 7階

TEL: 03-3571-1808 / FAX: 03-3571-7689

東京画廊+BTAP では10月8日（土）より、近藤高弘個展『結露』を開催いたします。

近藤高弘は1958年京都生まれ。人間国宝（染付）の祖父・近藤悠三と父・近藤潤のもとで育ち、卓球で日本代表選手になった異色の経歴を持ちます。25歳から陶芸の道を志し、1994年には京都市芸術新人賞を受賞、2002年には文化庁派遣芸術家在外研修員として、エジンバラ・カレッジ・オブ・アート・マスターコース（イギリス）を修了しました。

初めは伝統的な染付作品を制作した近藤でしたが、その後、金属や鑄造ガラスなど新しいメディウムを取り入れ、独自の造形表現を確立しました。1993年に、陶にプラチナ、金、銀、ガラスの混合物を粒状に結晶化させるオリジナル技法「銀滴彩」（特許取得）を生み出します。磁器に繊細な煌めきをもたらし、表面の雫にさまざまな表情を与える同技法は、土を媒介として、火の中から水を生むことをコンセプトとしています。

本展では銀滴彩に焦点を絞り、水をテーマに制作した「Reduction」、「Wave」など、旧作、新作合わせて十数点を展示致します。特に、東日本大震災の衝撃から制作された坐像「Reduction」は、ボストン美術館やギメ美術館など5つの美術館に収蔵された作品です。また、中国・洛陽博物館の協力のもと、唐三彩の鎮墓獣を型取りし、それを銀滴彩で再現した作品を、新たな試みとして展示いたします。

近藤の主な個展に「-手の思想-」（何必館・京都現代美術館、2017年）、「生水ーうつろいゆくウツワー」（瀬戸内市立美術館、2016年）、「セルフ ポートレート」（伊丹市立工芸センター、2010年）、「変容の刻一Metamorphose一」（京都芸術センター、成羽美術館、パラミタミュージアム、2007年）、「Takahiro Kondo: New Blue & White」（スコットランド国立美術館、1995年）などがあります。東京画廊+BTAPでは、2011年の『モノケイロケモノ』展に出品し、2018年には作曲家・一柳慧との二人展『消滅』を開催しています。本展は近藤にとって弊ギャラリーでの初個展です。

皆様のご来場を心よりお待ちしております。

プレス問い合わせ e-mail: info@tokyo-gallery.com

開廊時間 | (火-土) 12:00-18:00

休廊日 | 日、月、祝

東京画廊+BTAP | 東京

〒104-0061 東京都中央区銀座 8-10-5 第4 秀和ビル 7階

TEL: 03-3571-1808 / FAX: 03-3571-7689

www.tokyo-gallery.com



<Reduction> (2014) 磁器、染付、銀滴彩、80 × 65 × 46 cm



<銀滴碗「波」> (2020) 練り込み磁器、銀滴彩、7.7 × 13.7 cm



<鎮猷> (2021) 陶土、銀滴彩、56 × 25 × 18 cm